# 令和８年度　北日本医療福祉専門学校
# こどもマイスター養成科シラバス（２年）

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|---|---|---|---|---|
| 国語 | 15 時間 | ８コマ | １単位 | ２学年<br>（通年） | 必修 |

【学修内容】

国語教育の基本的な内容を理解し、幼児教育における言語指導にかかわる基本的な資質を養う。

【到達目標】

絵本、幼児同和に触れる事により子供の成長過程を理解でき、発達段階における適切な作品の選択ができる知識を身に付ける。

【授業の方法】

・講義

【成績評価の方法と基準】

・筆記試験及び講義への参加態度、課題への取り組みの姿勢も含めて総合的に判断する。

【授業時間外に必要な学修の具体的内容】

予習：次回行われる授業の範囲の教科書を読んできてください。
復習：教科書やノート、配布資料をもとに授業内容を理解し、わからないことを調べたり、質問したりしてください。

【使用教材・教具】

・適宜資料配布

【履修にあたっての留意点】

・授業中の私語、スマートフォン等の操作は認めません。積極的に授業に取り組んでください。

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|---|---|---|---|---|
| 保育者論 | ３０時間 | １５コマ | ２単位 | ２学年<br>（通年） | 必修 |

【学修内容】

１．多様化する保育者の専門性を考え保育者の役割を倫理を基に考える事が出来る。
２．保育者の倫理について学び、倫理的ジレンマを解決する過程を学ぶ。
３．保育における職員間の連携・協働、資質向上に関する組織的取組を理解する。

【到達目標】

・保育者の専門性を理解し、専門性の発達と今後のキャリア形成を考えることができる。

【授業の方法】

・講義

【成績評価の方法と基準】

・授業態度・授業出席率１０%、課題提出１０%、レポート１０%、期末試験７０%を基準に総合的に判断する。

【授業時間外に必要な学修の具体的内容】

・予習：次回行われる授業の範囲の教科書を読んできてください。
・復習：教科書やノート、配布資料をもとに授業内容を整理し、調べたり質問をしてください。

【使用教材・教具】

・『新基本保育シリーズ７　保育者論』中央法規出版

【履修にあたっての留意点】

・授業中の飲食や私語、不必要なスマートフォン等の操作は認めません。
・この科目は、他の科目との関連性があります。意識しながら授業に取り組んでください。

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|---|---|---|---|---|
| こどもの保健 | ３０時間 | １５コマ | ２単位 | ２学年<br>（通年） | 必修 |

【学修内容】

① 小児保健の意義を理解し、それぞれの発達段階における身体的、生理的、社会性も踏まえた精神機能の発達について学ぶ。
② 発達段階のおける子どもの病気の特徴や予防について学び、健康状態の把握の方法、他の関係機関との連携　の在り方を学び適切な対応について理解する。

③ 子どもの保健衛生活動に関連する機関・施設の役割について理解する。

【到達目標】

設題についてポイントを押さえて学習し小児保健の意義が理解でき、保育実践に活かせる。子どもの心身の健康増進を図る保健活動について理解し、現代社会における子どもの健康に関する現状や課題について理解する。

【授業の方法】

・講義

【成績評価の方法と基準】

・筆記試験８０％、受講態度及び課題２０％を総合的に評価する。

【授業時間外に必要な学修の具体的内容】

・予習復習を行ってください。

【使用教材・教具】

・『こどもの保健』豊岡短期大学

【履修にあたっての留意点】

・子どもの成長発達に興味を持ち学習をしましょう。

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|---|---|---|---|---|
| こどもの食と栄養 | ３０時間 | １５コマ | ２単位 | ２学年<br>（通年） | 必修 |

【学修内容】

１．レポート課題・単位認定試験出題課題を中心に、テキスト・参考図書だけではなくより広い視点からこどもの食と栄養について深く理解する。
２．スクーリングを通して学習成果に対する学習の理解を深め、実践力をつける。
３．普段からあらゆる視点でこどもの食と栄養について興味関心を持ち、質問用紙等を活用して向上心を持って高い資質を身につける。

【到達目標】

１．栄養に関する基本理念と栄養素の役割・働きを理解する。
２．幼児期の心身の発達を理解し、心身が健全に育成されるための対応を身に付ける。
３．こどもを取り巻く現代社会環境を理解し、健全にこどもを育むための環境の整え方を理解する。

【授業の方法】

・講義

【成績評価の方法と基準】

・レポート、中間テスト、科目試験 70～80%、出席、講義、課題の取り組み態度 20～30%で評価する。

【授業時間外に必要な学修の具体的内容】

・子供の成長発達と関連付けて学習しましょう。

【使用教材・教具】

・『こどもの食と栄養』豊岡短期大学

【履修にあたっての留意点】

・食は成長発達において大切な要素です。成長発達のために必要な食事を知ることで終わらず、指導できる人材となるよう学習をしましょう。

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|---|---|---|---|---|
| 特別支援教育 | １５時間 | ８コマ | １単位 | ２年生<br>（通年） | 必修 |

【学修内容】

特別な教育的ニーズを持つ子供を支援するにあたって、子供自身の特性を理解するのはもちろん、子供を支援するために必要な社会的資源や関係機関についての知識、個別の教育支援計画の作成方法とその利用方法、教育課程と学びと生活の場のあり方についても理解を深めるよう、特別支援教育に関わる幅広い内容を示す。

【到達目標】

１．インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを説明することができる。
２．視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児の生活上および認知機能における困難についての基礎的な知識を説明することができる。
３．特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について、個別の教育計画の役割を踏まえながら例示することができる。
４．関係機関の位置づけやその必要性について説明することができる。

| |
|---|
| 【授業の方法】 |
| ・講義 |
| 【成績評価の方法と基準】 |
| ・授業態度・出席率１５%、レポート１５%、期末試験の成績７０%を基準に総合的に判断する。 |
| 【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 |
| ・予・復習：随時課題プリントを配布しますので期限内に提出してください。 |
| 【使用教材・教具】 |
| ・『特別支援教育』豊岡短期大学<br>・『幼稚園教育要領解説』フレーベル館<br>・『保育所保育指針解説』フレーベル館<br>・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 |
| 【履修にあたっての留意点】 |
| ・授業中の飲食、不必要なスマートフォンの操作は認めません。 |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|---|---|---|---|---|
| 保育内容の理解と方法 | 45 時間 | 24 コマ | ３単位 | ２学年<br>（通年） | 必修 |

| |
|---|
| 【学修内容】 |
| （声　楽）保育のうたのレッスンを行う。<br>（ピアノ）子どもの感性を培うための音楽活動のあり方を理解する。<br>（身体）発達段階に応じた運動遊びを準備し、グループ毎での発表を通して、理解を深め、同時に子どもたちが自主的に楽しく且つ安全に展開する援助方法を学ぶ。 |
| 【到達目標】 |
| （声　楽）呼吸・発声についての基礎的な知識・技術を身につけるとともに、保育・教育現場で使用される歌唱教材を通して実践の場で応用できる力を養い、歌唱指導の自信へとつなげていくことを目標とする。<br>（ピアノ）教師・保育者に求められる豊かな音楽表現を習得する。<br>（身体）こどもが主体的に取り組める援助方法を習得する。 |
| 【授業の方法】 |
| ・演習 |
| 【成績評価の方法と基準】 |
| ・実技試験６０%、期末試験の成績４０%の他、講義への参加態度、課題への取り組みの姿勢も含めて総合的に判断する。 |
| 【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 |
| ・予習と復習をしてください。 |
| 【使用教材・教具】 |
| ・『簡易伴奏によるこどもの歌ベストテン[改訂新版]』株式会社ドレミ楽譜出版社<br>・『幼稚園教育要領解説』フレーベル館<br>・『保育所保育指針解説』フレーベル館<br>・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 |
| 【履修にあたっての留意点】 |
| ・授業中の飲食や私語、不必要なスマートフォン等の操作は認めません。<br>・身体表現の授業の際は動きやすい服装で受講してください。 |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|---|---|---|---|---|
| 乳幼児保育Ⅱ | １５時間 | ８コマ | １単位 | ２学年<br>（通年） | 必修 |

| |
|---|
| 【学修内容】 |
| 乳幼児保育の歩みと現状、乳幼児の発達上の特徴など、基本的な知識について学び、その意義や必要性を理解できるようにする。人としての基礎を培う大切な乳幼児期に関わる保育者の役割を理解し適切な保育の計画や方法、保護者への支援の習得を目指す。 |
| 【到達目標】 |
| 乳幼児保育の果たす役割について具体的な援助方法や保護者支援を理解できる。 |
| 【授業の方法】 |
| ・演習 |
| 【成績評価の方法と基準】 |

・授業態度・出席率１５％、レポート１５％、期末試験の成績７０％を基準に総合的に判断する。

【授業時間外に必要な学修の具体的内容】

・予・復習：随時課題プリントを配布しますので期限内に提出してください。

【使用教材・教具】

・『新基本保育シリーズ 15　乳児保育Ⅰ・Ⅱ』中央法規
・『幼稚園教育要領解説』フレーベル館
・『保育所保育指針解説』フレーベル館
・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館

【履修にあたっての留意点】

・授業中の飲食、不必要なスマートフォンの操作は認めません。

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|---|---|---|---|---|
| 社会的養護Ⅱ | １５時間 | ８コマ | １単位 | ２学年<br>（通年） | 必修 |

【学修内容】

　社会的養護に関する制度施策に関し理解し、療育支援していくための方法を理解し、子どもの権利擁護を図るための取組みを考えることができる。

【到達目標】

　社会的養護の対象の子どもを理解し、その困難を共に支えるための技術、知識、価値観を身に着ける。

【授業の方法】

・演習

【成績評価の方法と基準】

・筆記試験及び講義への参加態度、課題への取り組み姿勢も含めて総合的に判断する。

【授業時間外に必要な学修の具体的内容】

・予習復習を行ってください。

【使用教材・教具】

・『新基本保育シリーズ 18　社会的養護Ⅱ』中央法規出版
・『幼稚園教育要領解説』フレーベル館
・『保育所保育指針解説書』フレーベル館
・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館

【履修にあたっての留意点】

・授業中の飲食や私語、不必要なスマートフォン等の操作は認めません。

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|---|---|---|---|---|
| 子育て支援 | １５時間 | ８コマ | １単位 | ２学年<br>（通年） | 必修 |

【学修内容】

　近年家庭における教育力の低下が指摘される中で、保育所には地域における子育て支援センターとしての役割が期待されている。保育士は、在園児家庭への支援のみならず、地域の在宅保育家庭への支援にも目を向ける必要がある。この講義では、家庭における子育ての実情を知り、保護者の立場を理解しつつ、保護者が主体的に子育てに取り組めるような支援のあり方を検討する。また、子育て支援の課題や問題、方法論についても学ぶ。

【到達目標】

１．保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する
２．保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。

【授業の方法】

・演習

【成績評価の方法と基準】

・受講態度３０％、期末試験の成績７０％の他、課題への取り組みの姿勢も含めて総合的に判断する。

【授業時間外に必要な学修の具体的内容】

・予・復習：随時課題プリントを配布しますので期限内に提出してください。

【使用教材・教具】

・適宜プリントを配布

【履修にあたっての留意点】

| |
|---|
| ・授業中の飲食や私語、不必要なスマートフォン等の操作は認めません。 |

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|---|---|---|---|---|
| こどもの健康と安全 | １５時間 | ８コマ | １単位 | ２学年<br>（通年） | 必修 |

【学修内容】

保育現場における危機管理や災害時での対応、個別的配慮を有するこどもへのかかわり方、各専門機関や関係機関との連携を学び、意義を理解できるようにする。保育者は、大切な命を預かり保育を行っていることを理解し、こどもの健康と安全の保持を目指す学びを進めていく。

【到達目標】

保育現場や災害時での危機管理を知り、対応や処置方法を理解しできるようにする。
障害のあるこどもや個別的配慮を有するこどもへの対応を知り、かかわることができる。
家庭、専門機関、地域の関係機関等との組織的な連携を知る。

【授業の方法】

・演習

【成績評価の方法と基準】

・期末試験 90%、授業態度・小テスト 10%として総合的に評価する。

【授業時間外に必要な学修の具体的内容】

・予・復習：随時課題プリントを配布しますので期限内に提出してください。

【使用教材・教具】

・『新基本保育シリーズ 16　子どもの健康と安全』中央法規
・『幼稚園教育要領解説』フレーベル館
・『保育所保育指針解説』フレーベル館
・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館　・適宜資料配布

【履修にあたっての留意点】

・授業中の飲食、不必要なスマートフォンの操作は認めません。

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|---|---|---|---|---|
| コミュニケーション論 | ４５時間 | ２３コマ | ３単位 | ２学年<br>（通年） | 必修 |

【学修内容】

日本の伝統である華道・茶道を学ぶ。
保育現場、社会人として必要なマナーを学ぶ。

【到達目標】

華道・茶道の基本を身に着ける。
保育現場、社会人として必要なマナーを身に着ける。

【授業の方法】

・演習

【成績評価の方法と基準】

・授業態度、期末テスト、課題の取り組みを総合的に判断する。

【授業時間外に必要な学修の具体的内容】

・予・復習：随時課題プリントを配布しますので期限内に提出してください。

【使用教材・教具】

・『よくわかる社会人の基礎知識』（株式会社ぎょうせい）
・適宜資料配布

【履修にあたっての留意点】

・授業中の飲食、不必要なスマートフォンの操作は認めません。

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|---|---|---|---|---|
| こどもプロジェクト | 30 時間 | 15 コマ | ２単位 | ２学年<br>（通年） | 必修 |

【学修内容】

分野ごと基本的な道具の扱いを学ぶ。
保育現場で必要となる製作・遊戯・劇遊び等の基本的な技術を習得する。
オムツ交換・哺乳瓶の扱いを理解する。
保育現場で必要な技術を学ぶ。

互いに意見を出し合い製作や遊びを展開していく。

【到達目標】

保育実習Ⅰ・Ⅱで実践できるような基本的な技術を身に着ける。
製作・遊戯・劇遊び等の基本的技術を習得し、実践できるようになる。
自分なりの工夫やアイデアを入れた保育展開ができるような技術を身に着ける。

【授業の方法】

・演習

【成績評価の方法と基準】

授業態度・出席率１５％、作品１５％、実技テスト７０％を基準に総合的に判断する。

【授業時間外に必要な学修の具体的内容】

復習：プリントにて課題を出し、次回の授業前に提出してください。

【使用教材・教具】

裁縫道具・フェルト・刺繍糸・カラー軍手
ハサミ・カッター・のり・画用紙・乳児人形・オムツ・おしりふき・沐浴槽
乳児用衣服・哺乳瓶

【履修にあたっての留意点】

授業中の飲食・不必要なスマートフォンの操作は認めません。

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|---|---|---|---|---|
| 保育方法の探求 | ３０時間 | １５コマ | ２単位 | ２学年<br>（通年） | 必修 |

【学修内容】

保育課程の展開を踏まえ、保育実習においての学びを指導計画に基づき改めて考察する事が出来、保育実習の振り返りから課題を見つめ、保育学を探求する事ができる。

【到達目標】

１．保育課程の展開が出来、実践力を養うために事例を交えながら展開してゆくことができる。
２．保育実習での振り返りから、発展的に保育課程を考え、まとめ発表する事ができる。

【授業の方法】

・演習

【成績評価の方法と基準】

・課題の提出内容３０％、期末試験の成績７０％を基準に講義への参加態度も含めて総合的に判断する。

【授業時間外に必要な学修の具体的内容】

・予・復習：随時課題プリントを配布しますので期限内に提出してください。

【使用教材・教具】

・適宜プリントを配布

【履修にあたっての留意点】

・授業中の飲食、不必要なスマートフォンの操作は認めません。

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|---|---|---|---|---|
| レクリエーション | ３０時間 | １５コマ | ２単位 | ２学年<br>（通年） | 必修 |

【学修内容】

子ども達の心の健康、身体の健康、精神の健康に目を向けながら楽しい活動を計画し、実施できるようにする。

【到達目標】

レクリエーションの知識と技術について理解できる。
レクリエーション活動計画を作成し、実施できる。

【授業の方法】

・演習

【成績評価の方法と基準】

・授業態度４０％、実技試験６０％を総合的に評価する。

【授業時間外に必要な学修の具体的内容】

予習：次回行われる授業の範囲の教科書を読んできてください。
復習：配布資料をもとに授業内容を整理し、調べ学習、質問をしてください。

【使用教材・教具】

・適宜資料配布

【履修にあたっての留意点】

・授業中の飲食や私語、不必要なスマートフォン等の操作は認めません。

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|---|---|---|---|---|
| 地域ボランティア | １５時間 | ８コマ | １単位 | ２学年<br>（通年） | 必修 |

【学修内容】

学びの場は、目の前ばかりでなく、地域社会に広がっている。地域のボランティア活動を通して、得る学びはかけがえのないものである。

「ボランティアとは」「ボランティア活動は何か」といった本質的な部分から授業を進め、“人と人のつながり、かかわること”とは、何であるかについて改めて考えながら、今後の社会生活、職業生活における人間関係力などについて学びを深めていく。また、地域コミュニティの一員として、自分の生活する社会においておこる問題や課題に気付くことで、今後の地域社会とのつながり、かかわりについて考え。事後指導において多様なボランティア活動の事例や受講生のボランティア体験を共有し、その中にある思考、価値、態度などに触れながら自己省察する。

【到達目標】

１．ボランティアの本質、活動の意義を理解したうえで、社会、地域への貢献について考えをもち、説明することができる。
２．ボランティア活動の経験から、わき起こった思考、感情に目を向けながら、自分自身の変化について言葉にすることができる。
３．多様なボランティア活動の事例について知り、人や地域社会のつながり、かかわりについて、自分自身の考えを述べることができる。
４．受講生とボランティア体験を共有する学び合いから自己省察し、人間的な成長の契機とすることができる。

【授業の方法】

・演習

【成績評価の方法と基準】

・筆記試験、レポート８０％、受講態度２０％の他、課題への取り組みの姿勢も含めて総合的に判断する。

【授業時間外に必要な学修の具体的内容】

・予習復習をしましょう。

【使用教材・教員】

・適宜資料配布

【履修にあたっての留意点】

・授業中の私語、スマートフォン等の操作は認めません。

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|---|---|---|---|---|
| 課題研究 | 30 時間 | 15 回 | ２単位 | ２学年<br>（通年） | 必修 |

【学修内容】

保育に関する課題に対して、自ら進んで取り組み自分の意見を明確にすることができる。

【到達目標】

保育に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を行い、より専門的な知識と技術の深化総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。

【授業の方法】

・演習

【成績評価の方法と基準】

・講義への参加態度、課題への取り組みの姿勢を含めて総合的に判断する。

【授業時間外に必要な学修の具体的内容】

・提出期限までにレポート提出ができるよう集中して取り組みましょう。

【使用教材・教員】

・適宜資料配布

【履修にあたっての留意点】

・作成したレポートは自分で確認をしてから教員に提出するようにしてください。
・教員から添削されたレポートは必ず読み直しを行い、より良いレポート作成につなげてください。
・授業中の私語、スマートフォン等の操作は認めません。

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|---|---|---|---|---|
| 音楽実技 | 30 時間 | 15 回 | ２単位 | ２学年<br>（通年） | 必修 |

【学修内容】

こどもの音楽表現を豊かにし、こどもの成長過程に応じた発達を援助する。幼児の調和のとれた心身の発達を促すものは、教師・保育者の意図的・計画的な指導によることを理解する。こどもの感性を培うための音楽活動のあり方を理解する。教師・保育者に求められる豊かな音楽表現を習得する。

幼児教育における表現活動の意味・目的について学び、こどもたちの持つ生きる力や可能性をできる限り引き出すための音楽活動について考察する。そして、こどもの感性を培う音楽活動の指導法習得を目標に、鍵盤楽器を通してこどもと遊ぶ方法を学ぶ。発表会形式の成果発表を経験することにより、教師・保育者に求められる豊かな音楽表現の習得を図るとともに、弾き歌い等への応用方法について研究をすすめる。

【到達目標】

こどもの音楽表現活動を援助するために必要な基礎知識を身につける。
保育や幼児教育の場で活用できるピアノ演奏や弾き歌いができる。
コード伴奏の弾き歌いができる。

【授業の方法】

・実技

【成績評価の方法と基準】

・実技試験８０％、授業態度２０％以上の評価を得る事で単位を認定する。

【授業時間外に必要な学修の具体的内容】

予習：授業で取り上げる曲を事前に練習してきてください。
復習：授業の整理をし、ピアノの練習をしてください。

【使用教材・教具】

・『簡易伴奏によるこどもの歌ベストテン[改訂新版]』株式会社ドレミ楽譜出版社

【履修にあたっての留意点】

・授業中の私語、スマートフォン等の操作は認めません。積極的に授業に取り組んでください。
・わからないことがあったらそのままにせず必ず授業内に解決するようにしてください。

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|---|---|---|---|---|
| こどもと体育 | ３０時間 | １５コマ | ２単位 | ２学年<br>（通年） | 必修 |

【学修内容】

こどもの運動遊びの特徴や必要性を発育発達の面から理解しながら、図表や実践例から運動遊びのイメージを膨らませ、安全に楽しく遊びが展開できる知識を理論的に深め、運動遊びを考え、発表する。固定遊具、鬼ごっこ等について研究を深め、こども達が安全に楽しく運動遊びを展開するための指導法と援助の仕方、安全性について学ぶ。

【到達目標】

１．運動遊びにおける援助者の役割について理解し、人的環境について説明するとともに、集団遊びと発育発達について事例をあげて自分の考えをもつことができる。
２．こどもを取り巻く生活環境の変化は、様々な面から発育発達に大きく影響を及ぼしていることから戸外での運動遊びや心身の健康など、援助者として発達状況に応じた援助の在り方を理解し各種の問題に取り組むことができるようになる。
３．こどもの発育発達に即した運動能力を理解し、年齢に合った運動遊び（野外でのグループ・集団遊び、固定遊具（鉄棒）遊び、大型遊具を使った遊び、鬼ごっこ遊び等）が考えられ援助でき、運動遊びの指導法や安全についての知識を習得する。

【授業の方法】

・演習

【成績評価の方法と基準】

・授業態度１０％、課題提出２０％、試験７０％を基準に総合的に評価する。

【授業時間外に必要な学修の具体的内容】

・予習復習をしてください。わからないことは自分で調べたり質問したりしてください。

【使用教材・教具】

・適宜資料配布

【履修にあたっての留意点】

・授業中の私語、スマートフォン等の操作は認めません。
・怪我のないよう十分注意して取り組みましょう。

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|---|---|---|---|---|
| こどもの指導法 | 75 時間 | 40 コマ | 5 単位 | 2 学年<br>（通年） | 選択 |

【学修内容】

音楽表現：感性と表現に関する領域「表現」のねらい及び内容等を理解するとともに、音楽を通した様々な表現活動のあり方や実践の方法を具体的に理解する。

健康：乳幼児期の健康に関する幅広い知識と個々の発育発達の状態に合った配慮の仕方、子どもが健康でたくましく育つための具体的な方法について、現代社会の子どもを取り巻く生活環境にも目を向けながら積極的な健康づくり指導を目指す。

環境：環境とは何かを理解し、そこにどう関わるかを中心に保育現場における具体的事例を挙げて学習する。

言語表現：幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」と、幼児の心の表現を学び、言語表現に利用できる児童文化財の作成を試みる。作成した児童文化財を用いての表現演習を通して、言語表現活動の指導法について、問題点を出し合い、解決する力を身につける。

【到達目標】

音楽表現：感性と表現に関する領域「表現」の「音楽表現」に視点を置き、ねらい及び内容等について理解を深め、領域「表現」の全体目標への到達を目指し、より具体的、実践的、対話的な保育実践の方法を修得する。

健康：子どもの個々の健康状態を評価する能力を多領域から養うことを目的とする。

環境：保育内容「環境」のねらい及び内容について理解を深めるとともに、乳幼児の発達に即して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

言語表現：乳幼児期における各発達段階の子どもに相応しい言語表現活動の展開と指導法を学習し、乳幼児期の子どもの言語表現活動を指導することができるような基本的知識と技法を身につけることを目標とする。

【授業の方法】

・演習

【成績評価の方法と基準】

・単位認定試験により 60％以上の評価を得る事で単位を認定する。

【授業時間外に必要な学修の具体的内容】

・予習、復習を行ってください。

【使用教材・教具】

・適宜資料配布
・『幼稚園教育要領解説』フレーベル館
・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館

【履修にあたっての留意点】

・授業中の飲食や私語、不必要なスマートフォン等の操作は認めません。
・この科目は、他の科目との関連性があります。意識しながら授業に取り組んでください。

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|---|---|---|---|---|
| 健康論 | 15 時間 | 8 コマ | 1 単位 | 2 年生<br>（通年） | 選択 |

【学修内容】

乳幼児期の運動発達における大人との相違について映像資料や事例を活用し、乳幼児期において多様な動きを獲得していくことの意義と重要性を理解する。また、乳幼児期の子どものたちの健康に対する知識と発育発達について学ぶ。

【到達目標】

領域「健康」の指導に関する乳幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての理論的学習を身につける。

【授業の方法】

・講義

【成績評価の方法と基準】

・筆記試験及び講義への参加態度、課題への取り組みの姿勢も含めて総合的に判断する。

【授業時間外に必要な学修の具体的内容】

・予習、復習を行ってください。

【使用教材・教具】

・『健康論』豊岡短期大学
・『幼稚園教育要領解説』フレーベル館
・『保育所保育指針解説』フレーベル館
・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館

【履修にあたっての留意点】

・授業中の飲食、不必要なスマートフォンの操作は認めません。

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|---|---|---|---|---|
| 環境論 | 15時間 | 8コマ | 1単位 | 2年生<br>（通年） | 選択 |

【学修内容】

こどもを取り巻く環境は様々であり、その中でこどもは生活をしている。具体的な環境例を示しながら、それらとこどもの発達の関係性を考える。また、環境を通して行う保育の意味をしっかり学習し、保育者自身が保育環境をデザインする力を身につける必要があるため、様々な環境との出会いに気づき、それについて深く学ぶ。

【到達目標】

1 乳幼児期のこどもの発達と環境の関係性を考える。2 環境を通して行う保育の意味を知る。3 保育環境のデザインを実践できる。4 様々な環境との出会いを理解する。

【授業の方法】

・講義

【成績評価の方法と基準】

・筆記試験及びレポート等により60%以上の評価を得る事で単位を認定する。

【授業時間外に必要な学修の具体的内容】

・予習、復習を行ってください。

【使用教材・教具】

・『環境論』豊岡短期大学
・『幼稚園教育要領解説』フレーベル館
・『保育所保育指針解説』フレーベル館
・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館

【履修にあたっての留意点】

・授業中の飲食、不必要なスマートフォンの操作は認めません。

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|---|---|---|---|---|
| こどもの理解と相談支援 | 30時間 | 15コマ | 2単位 | 2年生<br>（通年） | 選択 |

【学修内容】

相談支援の究極的な目的は、こどもの人間形成、人格形成にある。幼児、児童、生徒を対象にした現場における相談支援に重点を置き、発達と成長の基礎理論、生活指導、しつけ、学習適応等について学ぶ。また、カウンセリングの基本的態や技法について学び、様々な心理アセスメントの内容・活用について理解を深める。

【到達目標】

こどもを理解するために、乳幼児の発達及び学び並びにその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理について学びます。また、その対応の一つの幼児教育（保育）現場における相談支援を学び、こどもが自己理解を深め、好ましい人間関係を築き、集団の中で適応的に生活する力を育むことを支援できることを目指します。そのために、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動のあり方について、こどもの発達の状況に即した支援ができるよう、心理的特質や教育的課題を捉える力を身につけるとともに、本人またはその親や保育者などに助言、指導、そして場合によってはカウンセリングを行えるようになることを目指します。より良い教育の方向を求めて指導助言ができる基礎理論と実際について学びます。

【授業の方法】

・講義

【成績評価の方法と基準】

・筆記試験及びレポート等により60%以上の評価を得る事で単位を認定する。

【授業時間外に必要な学修の具体的内容】

・予習、復習を行ってください。

【使用教材・教具】

・『こどもの理解と相談支援』豊岡短期大学
・『幼稚園教育要領解説』フレーベル館

・『保育所保育指針解説』フレーベル館
・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館

【履修にあたっての留意点】

・授業中の飲食、不必要なスマートフォンの操作は認めません。

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|---|---|---|---|---|
| 保育実践演習 | ３０時間 | １５コマ | ２単位 | ２学年<br>（通年） | 必修 |

【学修内容】

　実習施設において、施設の一日の流れを理解し、子どもの観察とそれに対応できる力を養う。
　保育所における、行事の運営方法を取得する。保育施設での子どもの活動について理解し、保育の流れをつくりだすことができる。

【到達目標】

　保育所における一日の流れが理解でき、日々の保育の流れをつくりだすことができる。また、季節行事など行事の運営を計画できる。

【授業の方法】

・演習

【成績評価の方法と基準】

・課題提出率・内容３０％、期末試験の成績７０％を基準に総合的に判断する。

【授業時間外に必要な学修の具体的内容】

・予・復習：随時課題プリントを配布しますので期限内に提出してください。

【使用教材・教具】

・適宜プリント配布

【履修にあたっての留意点】

・授業中の飲食、不必要なスマートフォンの操作は認めません。

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|---|---|---|---|---|
| 保育実習Ⅲ | ６０時間 | １０日間 | ２単位 | ２学年<br>（通年） | 必修 |

【学修内容】

１．子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。
２．子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。
３．保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価について実際に取り組み、理解を深める。

【到達目標】

１．子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深めながら、職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。保育士としての自己の課題を明確化する。
２．子どもの保育及び保護者への支援を学ぶと共に、保育の計画・観察、実践記録、評価について具体的に実践する事で理解し、実践する事ができる。

【授業の方法】

・実習

【成績評価の方法と基準】

・施設評価、職員評価により五段階評価中３以上の評価をとる。

【授業時間外に必要な学修の具体的内容】

・各教員の巡回指導を受け、実習に活かしていきましょう。

【使用教材・教具】

・『保育所保育指針解説』フレーベル館
・『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説』フレーベル館
・実習要綱

【履修にあたっての留意点】

・提出物等は遅れのないように提出すること。

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|---|---|---|---|---|
| 教育実習 | １２０時間 | ２０日間 | ４単位 | ２学年<br>（通年） | 必修 |

【学修内容】

１．観察実習・参加実習・部分実習・全日実習等を行い、保育指導案の作成を行う。

２．保育時間外の業務内容等を学ぶ。
３．上記の内容の実習記録をとりながら学び、考察し、実践的な指導力の向上を図る。

【到達目標】

幼稚園の役割と保育者の役割について理解を深め、学級運営力、保育指導力、保育者としての資質を身に付ける。

【授業の方法】

・実習

【成績評価の方法と基準】

・施設評価及び教員評価をもとに五段階評価中３以上の評価とする。

【授業時間外に必要な学修の具体的内容】

・教員の巡回を利用し、実習中でのつまずきを解消したり、気づきや学びを深めたりしていきましょう。

【使用教材・教具】

・『保育所保育指針解説』フレーベル館
・『幼稚園教育要領』フレーベル館
・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館
・本校実習要綱

【履修にあたっての留意点】

・提出物等は遅れないように提出すること。

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|---|---|---|---|---|
| 保育実習指導Ⅲ | ３０時間 | １５コマ | ２単位 | ２学年<br>（通年） | 必修 |

【学修内容】

１．保育実習の意義・目的・実習生としての心構えを学び、今までの実習を活かし、自己課題の設定や学びを深めていく。
２．実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

【到達目標】

これまでの実習で学んだことを土台とし、グループワークや実践を通して保育者としての知識、技術の獲得を目標とし、部分実習や全日実習に必要な指導計画や教材研究を行い、実習における自己課題を明確にすること。

【授業の方法】

・演習

【成績評価の方法と基準】

・課題の提出内容３０％、実習後の振り返りレポート７０％を基準に総合的に判断する。

【授業時間に必要な学修の具体的内容】

・予・復習：随時課題プリントを配布しますので期限内に提出してください。

【使用教材・教具】

・『保育実習』中央法規出版
・本校実習要綱
・適宜プリント配布

【履修にあたっての留意点】

・授業中の飲食、不必要なスマートフォンの操作は認めません。

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|---|---|---|---|---|
| 教育実習指導 | １５時間 | ８コマ | １単位 | ２学年<br>（通年） | 必修 |

【学修内容】

１．教育実習の意義・目的・実習生としての心構えを学び、今までの実習を活かし、幼稚園ならではの自己課題の設定や学びを深めていく。
２．実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

【到達目標】

これまでの実習で学んだことを土台とし、グループワークや実践を通して保育者としての知識、技術の獲得を目標とし、部分実習や全日実習に必要な指導計画や教材研究を行い、実習における自己課題を明確にすること。保育園・幼稚園の違いを理解する。

【授業の方法】

・演習

【成績評価の方法と基準】
・課題の提出内容３０％、振り返りレポート７０％を基準に総合的に判断する。
【授業時間に必要な学修の具体的内容】
・予・復習：随時課題プリントを配布しますので期限内に提出してください。
【使用教材・教具】
・本校実習要綱
・適宜プリント配布
【履修にあたっての留意点】
・授業中の飲食、不必要なスマートフォンの操作は認めません。

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|---|---|---|---|---|
| 教育実習事前・事後指導 | １５時間 | 8コマ | １単位 | ２学年<br>（通年） | 必修 |

【学修内容】
教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学ぶ。また、幼児の発達の特性や発達過程を踏まえ、幼児理解や観察の視点・方法、指導案作成等の習得に努めるとともに、目標を持って実習に望む態度を育成する。
また実習後、総括と自己評価を行い、課題や目標を明確にする。
【到達目標】
１．幼稚園実習に備えて、実習についての知識、技能、態度（心構え）を習得する。
２．保育指導案の作成、実習記録の記入の方法を学ぶ。
３．実習終了後、自分の実践を振り返り、反省点や課題を明確にして保育の実際について理解を深める。
４．園内業務を理解し、保育環境の重要なことを知り、実務実習を進んで行う。
【授業の方法】
・演習
【成績評価の方法と基準】
・単位認定試験により 60%以上の評価を得ることで単位を認定する。
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】
・予・復習：随時課題プリントを配布しますので期限内に提出してください。
【使用教材・教具】
・豊岡短期大学「教育実習事前・事後指導」
・教育実習日誌
・フレーベル館「幼稚園教育要領解説」
【履修にあたっての留意点】
・授業中の飲食、不必要なスマートフォンの操作は認めません。

| 科目名 | 授業時数 | コマ数 | 単位数 | 対象学年 | 必修/選択 |
|---|---|---|---|---|---|
| 保育・教職実践演習 | ３０時間 | １５コマ | ２単位 | ２学年<br>（通年） | 必修 |

【学修内容】
人間関係を結ぶ力や他人に説明できる表現力、物事の解決策を見出せる問題解決力、他者と心と心を通わせられる共感力などの能力を培い、「組織人としての教師」の在り方についても学ぶ。さらに幼稚園と小学校、小学校と中学校、中学校と高等学校のつなぎを十分意識し、教育現場で直面する問題等の対応についても学修する。
【到達目標】
① 学校教育についての理解
② 幼児児童生徒理解
③ 教師としての使命感や責任感、教育的愛情について
④ 社会性や対人関係能力の重要性　⑤教育実践の個々のレベルアップ（教材の開発、表現技術、授業・保育の構想・展開力、学級経営力など）を図る。
【授業の方法】
・演習
【成績評価の方法と基準】
・受講態度及び出席状況４０％、試験・課題等６０％を基準に総合的に判断する。また、スクーリングについては単位認定試験により 60%以上の評価を得ることで単位を認定する。
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】

予習：次回行われる授業の範囲の教科書を読んできてください。
復習：教科書やノート、配布資料をもとに授業内容を整理し、分からない所を調べたり、質問をしたりしてください。

【使用教材・教具】

・適宜資料配布

【履修にあたっての留意点】

・授業中の飲食や私語、不必要なスマートフォン等の操作は認めません。